

東部地域の良いところ

分野	意見
交通	・バス便が相当に充実している
	・つつじヶ丘から成城へのバスが通っている
	・京王線3駅利用
	・バス路線多数（JR中央、小田急も利用）
	・国道、都道が出来上がっている。
	・市民の市内バス交通利用はすごく便利になった。とても良い。どうその便利さをもっと高齢者などに伝えていくか。
	・昔ながらの曲がりくねった生活道路が残っている。（マイナス面もあるが）
環境	・国分寺崖線「若葉の森」がある。実篤公園。
	・河川が多い
	・森緑が多い
	・森と緑守ろう
	・屋敷林が残っている
	・品川通りサルスベリ（街路樹）
	・野川が流れている
	・仙川の菜の花がきれい
	・国分寺崖線のみどり
	・崖線の坂道は地域独特の景観として貴重。ただし高齢者にとってはバリア（障壁）にもなっている。
・崖線をはじめまだ「緑」が残る	
福祉	・地域福祉コーディネーターが親身に活動
	・認知症でも地域で生活しやすい活動がされている
	・学校が多い
住環境	・仙川駅東南の統一感と文化の香りがする街並み
	・図書館分館網とサービスが良い。民営化せずにさらなる充実を
	・駅前そうじが市民で行われていてきれい
	・身近に公民館や図書館分館があって利用しやすい→改修、再配置計画で悪化しないように
景観	・富士山が見れる
	・明るい（高い建物が無い）
	・つつじヶ丘駅前（南口）は農地が残り、京王線の駅の中でも魅力的な景観となっている。

分野	意見
地域 活性化	・文化教育機関の好立地（白ゆり、桐朋、NTT 学園等）
	・商業施設多い
	・市民が気軽に立ち寄れる居場所が複数ある
	・仙川商店街に個性的な店がかなりあり独特の魅力となっている。
	・個性的な店舗が商店街にあり、メディア露出がある。

東部地域の改善すべきところ・改善策

分野	意見
交通	・コミュニティバス少ない
	・コミュニティバスが少ない
	・地域のニーズに応じて補助金を増やす必要がある
	・つつじヶ丘駅からメジャーターミナル直行バスがない（吉祥寺，三鷹等）
	・バス利用のメリット（昔と比べかなり良くなった）を市民に周知すべき
	・バス・鉄道はヨーロッパで24時間ゆっくり食事できる→そうした考えが調布で取り入れられないか
	・狭く凸凹の多い歩道を乳馬車，シルバーカー，狭く使用者が歩くのは危険な毎日
	・新しい大きな道路を「整備」と称して新設するのではなく，身近な生活道路の状態を改良するべき
	・大きな道路をつくると言ってきたが誰も欲しがっていない。身近な道路の改善が必要（子供も増えている）
	・不要な生活道路計画廃止，見直し。入間町1丁目。役人の税金のムダ。
	・さっさと廃止
	・道路新設が不安をもたらしている。「外環道」陥没以後の物理的不要，心理的圧迫
	・（外環道）調布市は事業者の代弁者ではなく市民の立場に立つべき
	・外環陥没の復興計画を市が推進
	・外環道トンネル工事は住民の生命を脅かし「街壊し」になっている。一時的な課題としてではなく，長期的な課題として「都市マス」でも位置づけるべき。
	・外環道の課題が共有されていない
	・道路の修繕箇所をアプリで報告できるが，もっと色々な問題を集める方法を考えるとよい
	・道路が傷んでいる場所をスマートフォンから報告できる内容を広げ，意見集約を自動化する。
	・住民無視の計画はやらないこと（都市計画道路）
	・道路整備に対する市民意向は新規計画ではなく大半が生活道の改良
	・調布3・4・10号線延伸は不要。計画を廃止すべき。
	・崖線の緑を壊し生き物を生きにくくする都市計画道路計画は根本的に見直したい
	・自動車のための道路ではなく暮らしのための歩く道を最優先すべき
	・国交省の交通量調査では通行量は増えていない。右肩上がりで使った計画は見直すべき（幹線道路整備等）
	・車の通行量が多い
	・交通量の制御
	・道路陥没後も地面が沈むのではと不安が広がっている→マンホールが沈んできている
	・道路表示（白線消えかけ読めない（交通標識：止まれ）
	・松原通りに自転車道が欲しい
	・道路管理保基準作って点検して補修，定期更新
	・自転車，歩行者が危険と感じる道路がある。とくに直線道路でスピードを出す車が見受けられる。
	・生活道路で車がスピードを上げないように道路施設（ハンプ⇒スピードダウンさせる工夫）など整備したい

分野	意見
環境	・外環陥没。被害，公害。まちこわし，人こわし。
	・住民救済の積極的施策
	・都市計画道路調布3・4・10号路。 計画一環境破壊。
	・調布3・4・10号路廃止。住民への説得すること，都にも。
	・緑が減っている。生産緑地，市の小さな公園がこの10年ほどで著しく減り，宅地化，人口増，保育教育環境が低劣化している。
	・緑地保全ボランティアにもっと市民参加を促す。生産緑地や宅地の公有地化を勧める
	・樹林保全ボランティア不足・高齢化。外部の人の不当な制限。
	・積極的にボランティアを増やす努力を
	・ボランティアの継承と若返りなどに行政の協力が必要
	・市民の活動に呼び掛けても少ないのが現状。もっと参加してもらう活動が必要。
	・森・緑保全に市民の参加が少ない
	・公園の樹木勝手に切る
	・保存樹指定を 市の所有木も
	・緑の保全は緑地量なのか，子供の遊び場なのか
	・緑の減少（雑木林，農地，ちびっこ広場）
	・宅地化の歯止め，緑に投資
	・屋敷林の大木が減少している
	・公有財産と思っていた緑（地）が借り上げでどんどん宅地化している（緑減）
	・住宅開発が進み，地域の中にゆとりが減ってきた。畑，雑木林⇒減少 大きな広場，公園⇒増やすべき ⇒早めに確保しないと間に合わなくなる。
	・公園（緑）拡張する機会を活かしきれてない（緑の減少に加速）
	・国分寺崖線の緑をいかに残し増やすか
	・崖線の緑が減少。
	・国分寺崖線があり大事。景観ガイドラインがあるが優先されていない
	・里山としてのメリット・デメリットのバランスをとり活用する考えが必要。
	・崖線の緑が開発によって削られ，やせ細ってきている
	・市民の森・緑を保つ為の意識改革
	・若葉町の崖地の開発
	・湧き水が枯れている！
	・子供の遊び場，公園が少ない
	・子供（小学生）が遊べる空間，公園がない
・公園や遊ぶ場所を増やす。特に若葉町。	
・崖線樹林に生息する絶滅危惧植物が被害を受けようとしている	
・都市 MP 作るのはいいがミニ開発が行われると抑制が出来ない事は困る	
・松原通りの街路樹を整備して欲しい	

分野	意見
環境	・環境アセスメントを優先してほしい。
	・面積で開発を決めるのではなく、環境アセスを必ず行う
	・花の手入れ、植える活動を広げ、自慢できる場所を増やす
福祉	・園庭のない保育施設が増えて園外保育のために道路を頻繁歩かせている大津市の事故の再来を恐れている。
	・京王線沿いで保育園が増えた。崖線を出て遊んでいる現状を理解すべき。
	・地域包括支援センターの所在地がわかりにくい。駅近くの判りやすい所に設けるべき
	・地域包括支援センターが知られていない
	・地域生活センターの場所がわかりにくい（利用される場所の）
	・各種公民館が小さい
	・現在の分野別の区分だとコロナ禍で進む Wifi などの対応が示しにくい
	・芝生→スポーツできる学校（校庭）
	・校庭に芝生がない
	・校庭に芝生を導入し安全な運動環境を！
	・MP の修正には子供がいきいき育つ事を考える柱が欲しい
	・子供の権利条例を作してほしい
	・都市マスタープランに子供の権利の視点（子供の成長・発達・遊びと学びの権利）を入れてほしい
	・調布市の子供の権利条例をつくってほしい（子供参加）
	・子供の支援場所が少ない
	・全員入園。子供の公園が少ない。
	・保育園、幼稚園が少ない。全員入園がない。
	・生命の危機を受け入れた上で様々な活動する向き合い方も大事。
	・外に出る人が生活不便者の救済、支援活動につなげる（アプリ）考えもできるとよい
	・東部公民館バリアフリーに（階段しかない）
・障がい者が地域にでるための道路整備	
・障がい者との交流が少ない	
・独居住民の見守りとランニング、犬の散歩を組み合わせるアプリの開発	
防災	・空き家対策の一つは小公園に
	・地域防災、自助共助、初動が弱い
	・自治会・町内会の補助をアップ（公的な補助）
	・乱開発をしない（危険箇所）
	・崖地周辺での宅地開発は抑制すべき
	・崖線が宅地化されているが土砂災害などはどうなっているか不安
	・防災活動（初動）にもっとコストをかけて欲しい
	・甲州街道で帰宅困難者で大変になるはずなので、防災訓練などもやるべき
	・避難所の在り方を考えないといけない
	・防災無線は聞こえない
	・入間川の氾濫

分野	意見
防災	<ul style="list-style-type: none"> ・洪水対策 ・2005年の入間川洪水後、分水路が整備されたが、1時間50mm対応。より強化して「内水氾濫」対策が必要
住環境	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家が増えている ・空き家対策にしっかり取り組む ・空き家の所有者は土地を手放したくない人が大半。シェア的活用はニーズがある。考えていくべき。 ・空き家対策の一つは小公園に ・東部は20年後に減る人口を考えるのではなく増えている現在の課題に備えるべき→過密による現況の悪化 ・甲州街道による街並みの分断（CO2, CH4, NOX）大気汚染 ・歩道橋の活用。地下道の活用 ・太陽光パネルの設置を推進すべき ・雨水浸透マスのさらなる推進を ・ガードレールがない所があり児童の通学上危険。 ・緑ヶ丘エリア 都道（松原通り）都営団地との一体的な建築・街づくりが見えてこない。 ・医療、公衆衛生の地域の合意形成ができてない ・地域住民の交流が少ない ・子供達が憩う場所が少ない ・くつろぐ場所を作る ・地域の若葉小・四中の校地統合に地域の意見をもっと生かして（特に若葉小跡地の地域住民向け活用を） ・学校の地域開放
地域活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館など予約がとれない ・公的コミュニティを増やす ・つつじヶ丘南側は喫茶店がなくコミュニティ、賑わいがない（ランチタイム限定） ・おらほせんがわ夏祭り運営補助を拡大 ・駅前・日向通りにぎやかにする ・歩行者天国や車両通行止めなど 車優先をとめる策を ・ゴーストストリート（刑務所通り） ・仙川劇場の会を1～2回/年開催していたが、今はやってないのでそうした場が必要。 ・せんがわ劇場が事務局になり市民、地域団体、行政協働の会議を再び作る ・東部公民館・入間地域福祉センターにWiFiない、プロジェクトもなし？ ・WiFiをつける ・美術館がない ・美術館の誘致 ・男性（父親世代）が地域内で交流し、地域の価値を高める考えが必要（コミュニティの在り方） ・壮年男性の市内など近隣交際を今の20倍に出来ないか市当局の方々（皆さん）は現状をどう考えていらっしゃるか。策はあるか。6ページの提案はその解決策の一つであります

分野	意見
その他	・コンパクトで集めていくのか、分散化するかの考えを都市計画MPで示す
	・バスロータリー含めどういった人達で話し合っているのか？つつじヶ丘駅を使っているが声がかからない
	・地域内で開発を進めていくなれば地域住民に周知し、声を聞いてもらいたい
	・ワークショップ（WS）で出てきた意見を見て市はどう思っているか。WSはこれからもやるべき
	・前の都市MPは市民委員中心に作ってきた。今回は市民中心という概念が薄れている印象。
	・都市（マス）計画課を環境/福祉との連携をすすめる。
	・未来市民（子供、女性等）から意見を聞いていかないといけない。反省し、課題とすべき
	・このワークショップに若者や女性の参加が少ないのは大問題。小・中・高生に対しては学校と連携して参加を促すべき
	・WSの開催を知ることができたのは特殊ルートがあったため。SNSを使うなどの工夫が必要
	・①～⑦の分類は全てつながっている。一タ七朝のまちづくりを考えて欲しい
	・文化、芸術団体の地域の一体になる話し合いの場がない
	・松原通り（国分寺崖線沿い）ごみが多い
	・オンライン上で参加できる常設のまちづくり意見交換施設化の仕組みづくり、事務局コスト削減になる活動
	・他市町村のまちづくりプランをデータ化し、横断的に市民がまちづくり情報を得られるようにする
	・たて割り行政をなくす！
・職員市民の学びが必要。（市民との協力）	

東部地域の 20 年後の望ましい姿

分野	意見
地域全体	・文化芸術の担い手のステータスを上げる
	・せんがわ劇場のあるまちづくり
	・おらほせんがわ夏祭りの復活
	・調布市は積極的に SNS を活用して市民参加を革新的に多岐に拡大する
	・子ども若者の参加。調布市子供の権利条約をつくろう
	・人がゆったりとすごせるまち
	・人と生き物の命と健康を守るまち
	・人々の分断を超え、心穏やかに過ごせるまち
	・未来世代の思いや意見を反映するまち
	・脱炭素・循環型の暮らしを未来世代に手渡すまち
	・限られた予算，資源を生かして一石七鳥の街づくりを考えることが必要
	・未来世代・子供・人中心
	・縄文からの歴史に生まれ東京多摩伊豆諸島の交通ハブとして発展する水と緑の田園都市
環境	・緑・森を守り癒される調布
	・みどりを大切にしたまち
	・緑
福祉	・子どもや障がい者にやさしい
防災	・安全
	・無能な行政とおとなしい住民がセットになると悪徳業者がはびこる
住環境	・住みやすい
	・静か
その他	・⑧として教育という視点も入れて欲しい
	・キーワード：①アート②SDGs③DX によるオープンイノベーションアドミニストレーション
	・調布にはビーチがある！ビーチ（伊豆諸島）に直結した街，調布。
	・市は住民のために知恵を出し，汗を出す。
	・コミュニケーション，つながり

